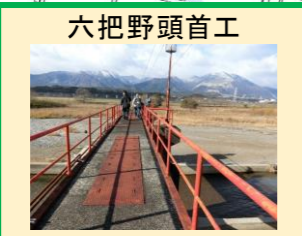
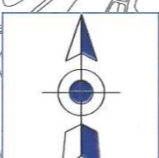


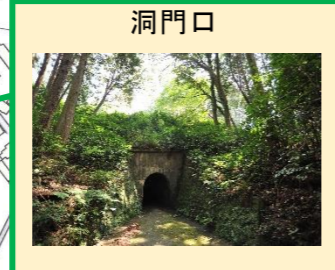
第32回 北勢線の魅力を探る

六把野井水と自噴井

麻生田駅－六把野頭首工－麻生田自噴井2個－麻生神社－上笠田城跡－下笠田八幡神社－
めがね橋・ねじり橋－吉備川掛樋－北金井自噴井2個－了雲寺



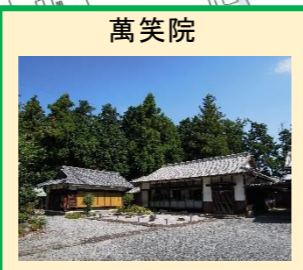
六把野頭首工



洞門口



麻生田駅



萬笑院



麻績塚古墳群



麻生神社

麻生田
自噴井

麻生田
自噴井

北勢線

山田川橋梁

六把野井水

今から380年ほど前、桑名藩最初の土木工事として六把野井水の工事が始まり、麻生神社より員弁川の水を水下十三か村に送ったと伝えられている。上笠田村の大庄屋二井家の呼びかけにより、萬笑院の中興の祖、文華和尚の尽力もあり、難工事でしたが、約35年の歳月を経て完了した。380年経った現在でも、260町歩の田んぼに水を送り続けている。

六把野頭首工

昭和41年完成。河床が低下し自然取入れが困難となり近年においては500～800m上流まで瀬掘していたため、改修時に682m上流に設置。現在ここから麻生神社まで約100mは暗渠となっている。

麻生田自噴井

自噴井とは特殊な地質構造から地下水が自動的に噴き出てくる井戸のことで、1年365日24時間(年中水温が一定なので、夏は冷たく、冬は温かく感じる)絶え間なく自噴して(湧き続けている)。なぜ自噴するかは、午後の学習会で解説予定。他地区のほとんどの自噴井は個人所有が多いが、北勢町麻生田地区では隣同士で構成する組で共同して大規模な自噴井を掘り、大型の貯蔵水槽に貯めて各戸の台所まで給水していた。第4組の水槽(2つの濾過槽)からは12軒に、第5組の水槽(高層のタンク)からは8軒に給水されている。

麻生神社

麻生神社は麻生田地区(330戸)の氏神さんで縄文時代の宗教的遺物と言われる〔石棒〕が六反(久保院近く)で出土し当神社の所蔵品になっている。江戸期桑名藩領となり当神社下の員弁川に六把野井水の取水口(頭首工)が設けられ水下13か村から守り神として崇敬され、神社の大幟一対は古くなると組合から贈られるのが慣わしで、嘉永4年9月石柱(御神燈)を建て雨乞いの神事がたびたび行われたそうで往事が偲ばれる。

山田川サイホン

山田川で井水は逆サイホン式(伏せ越)になって川の下を潜って対岸に繋がっている。約60年前の昭和の改修工事までは川を堰き止め水を送っていた。

500m